

記者発表資料

平成22年度 横浜国道事務所の道路事業概要

平成22年度横浜国道事務所の事業は、交通円滑化、地域連携、共同溝、維持修繕、沿道環境改善、交通事故、電線共同溝等、総額約239億円の予算により、道路整備及び日常の維持管理を実施して参ります。

平成22年度の道路整備予算のポイントは、真に必要な道路事業に重点化するとともに、事業効率の早期発現の観点から、開通時期が近いもの、事業年数が短い事業に優先配分されています。

当事務所の事業実施においては、限られた予算で最大限の効果が発現されるよう、厳格かつ効率的な執行に努めて参ります。

特に開通時期が近い事業の工程管理については厳格に対処するとともに道路ストックの長寿命化等予防保全対策を実施して参ります。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ／神奈川建設記者会／神奈川県政記者クラブ
横浜市政記者会／横浜ラジオ・テレビ記者会／東京都庁記者クラブ
川崎記者クラブ／相模原記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所
〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2
電話 045-311-2981 (代表)
地域広報官 徳嵩 公明 (とくたけ きみあき) (内線204)
計画課長 平岩 洋三 (ひらいわ ようぞう) (内線261)

平成22年度 横浜国道事務所 事業費

(単位:百万円)

事業名	事業費
改築事業	15,055
国道1号 川崎1号環境整備	10
国道1号 原宿交差点改良	203
国道1号 新湘南バイパス	75
国道1号 小田原箱根道路	657
国道16号 横須賀地区トンネル改修	50
国道246号 厚木秦野道路	470
国道246号 秦野IC関連	10
国道246号 山北バイパス(向原改良)	120
国道357号 東京湾岸道路	846
国道468号 首都圏中央連絡自動車道(金沢～戸塚)	5,615
国道468号 首都圏中央連絡自動車道(横浜湘南道路)	399
国道468号 首都圏中央連絡自動車道(茅ヶ崎～海老名)	5,500
国道468号 首都圏中央連絡自動車道(海老名～厚木)	1,100
交通安全事業	2,443
国道15号 鶴見地下道昇降設備整備 他	2,443
電線共同溝事業	2,568
国道1号 酒匂3丁目電線共同溝 他30箇所	2,568
共同溝事業	525
国道357号 金沢共同溝 他1箇所	525
維持管理	3,278
国道1号、15号、16号、246号、357号、409号の維持管理	3,278
合 計	23,869

※上記のほか、調査費、業務取扱費がある。

横浜国道事務所の主な事業

- 凡例
- (既設) 自動車専用道路
 - (既設) 計画路線
 - (既設) 国道(圏内)
 - (既設) 計画路線
 - (既設) 国道(圏外)
 - 横浜国道事務所 出張所
 - 出張所



首都圏中央連絡自動車道[さがみ縦貫道路]

(茅ヶ崎市、寒川町、海老名市、厚木市、相模原市)

平成22年度事業費 約66.00億円

概要

さがみ縦貫道路は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間であり、神奈川県内南北方向の交通軸として都市間の道路交通網強化及び交通混雑の緩和を目的とした道路です。

これまでの状況

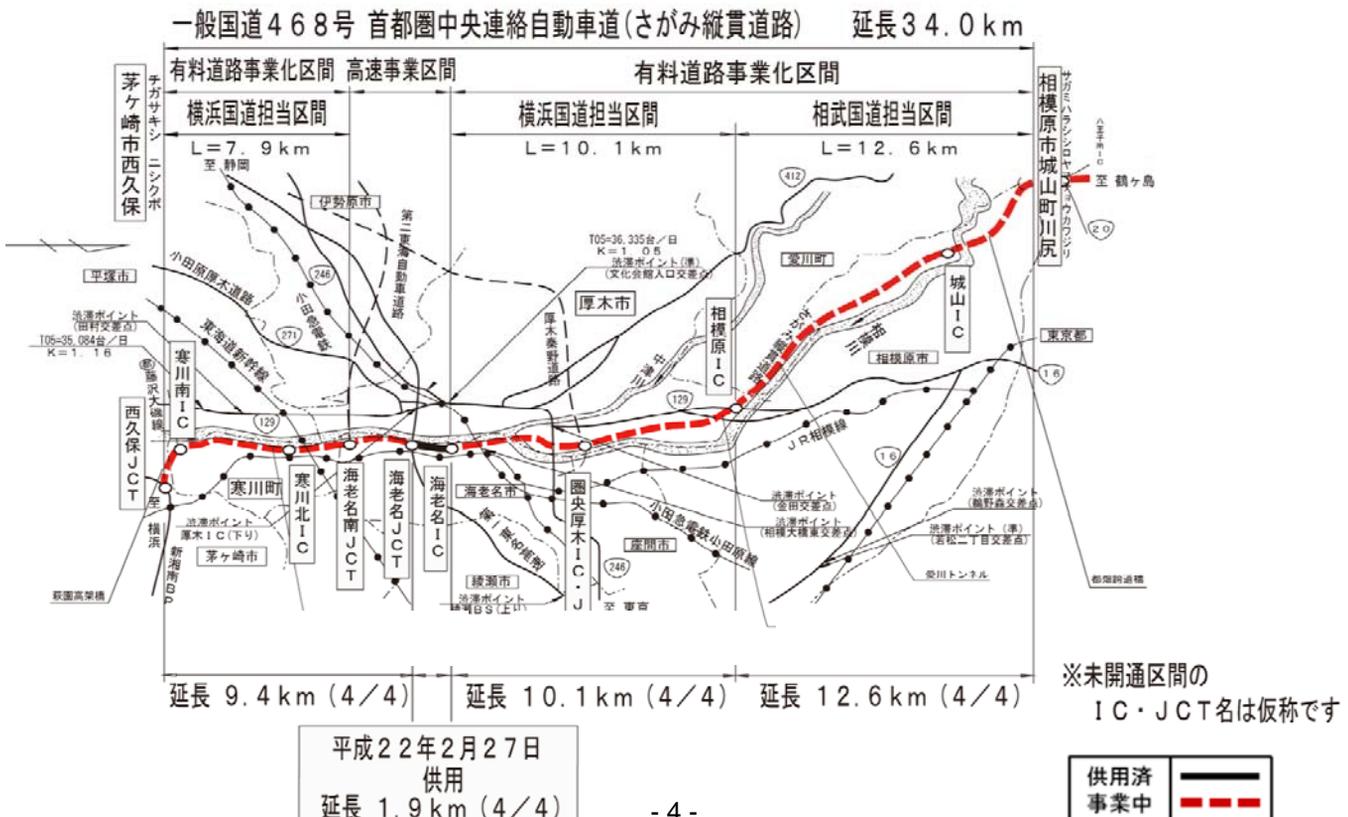
さがみ縦貫道路は、茅ヶ崎市西久保^{にしくほ}～相模原市城山町川尻^{しろやまちょうかわじり}までの間の延長約34.0kmのうち、当事務所においては西久保JCT～海老名南JCTまでの間及び海老名IC～相模原ICまでの間の延長約18.0kmを担当しており、道路設計、用地買収及び工事を実施しています。

このうち、西久保JCT～海老名南JCTまでの間の延長約7.9km区間については、道路設計、用地買収及び橋梁工事を実施しており、用地進捗率が約99%に達しているところです。

また、海老名IC～相模原ICまでの間の延長約10.1km区間については、道路設計、用地買収、橋梁及びトンネル工事を実施しており、用地進捗率は約99%に達しています。

平成22年度の予定

西久保JCT～海老名南JCTまでの間は、道路設計、用地買収、埋蔵文化財調査及び橋梁工事を実施し、海老名IC～相模原ICまでの間については、道路設計、用地買収、埋蔵文化財調査、トンネル・橋梁工事を実施します。



首都圏中央連絡自動車道〔横浜湘南道路〕

(横浜市、鎌倉市、藤沢市)
平成22年度事業費 約3.99億円

概要

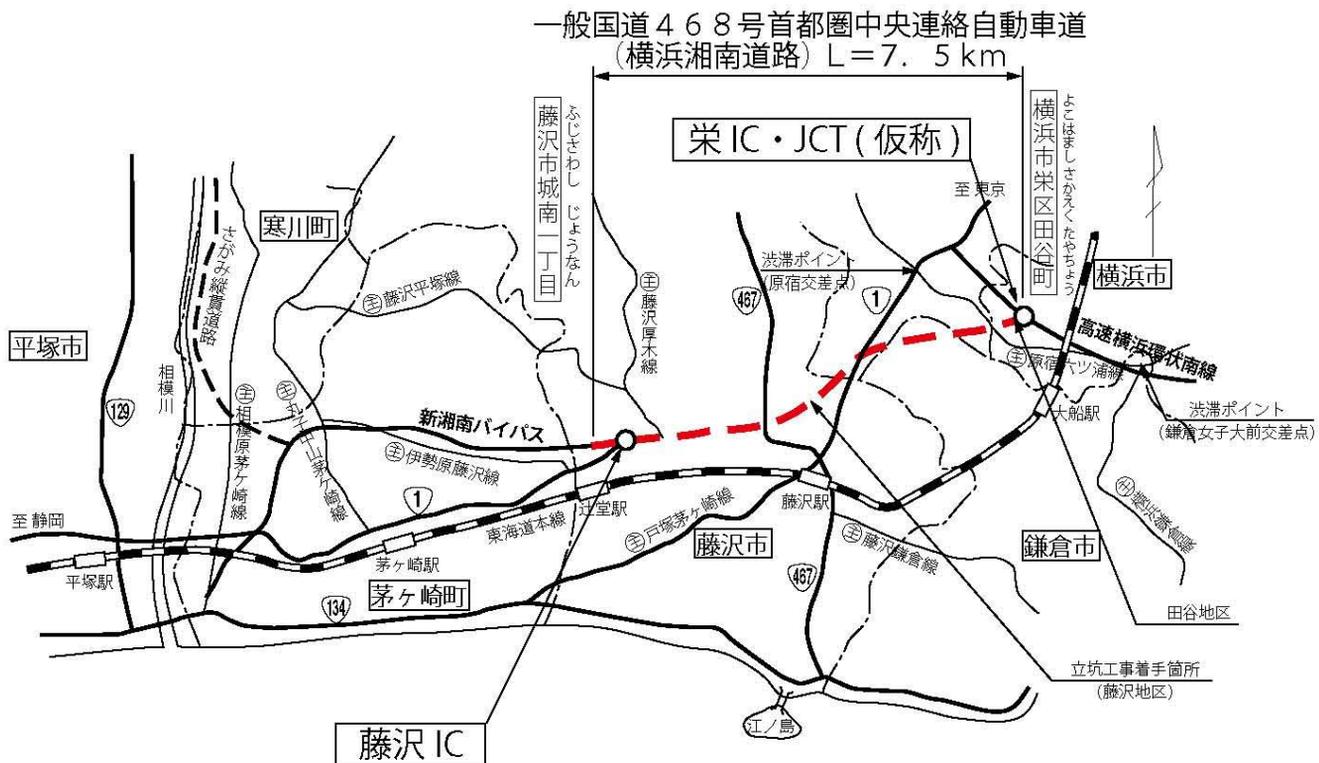
横浜湘南道路は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間であり、さがみ縦貫道路や高速横浜環状南線及び既に開通している区間の新湘南バイパスと一体となって自動車専用道路のネットワークを形成し、広域的な交通の円滑化を図るとともに、地域交通の交通分担を適正化、国道1号等の交通混雑の緩和を目的とした道路です。

これまでの状況

横浜湘南道路は、横浜市栄区^{たやちよう}田谷町～神奈川県藤沢市城南一丁目^{じょうなん}までの間の延長約7.5kmについて、道路設計及び用地買収を実施しており、平成22年3月末時点で用地進捗率が約47%に達しているところです。

平成22年度の予定

今年度は、道路設計及び用地買収を実施します。



首都圏中央連絡自動車道〔高速横浜環状南線〕

(横浜市、鎌倉市)

平成22年度事業費 約56.15億円

概要

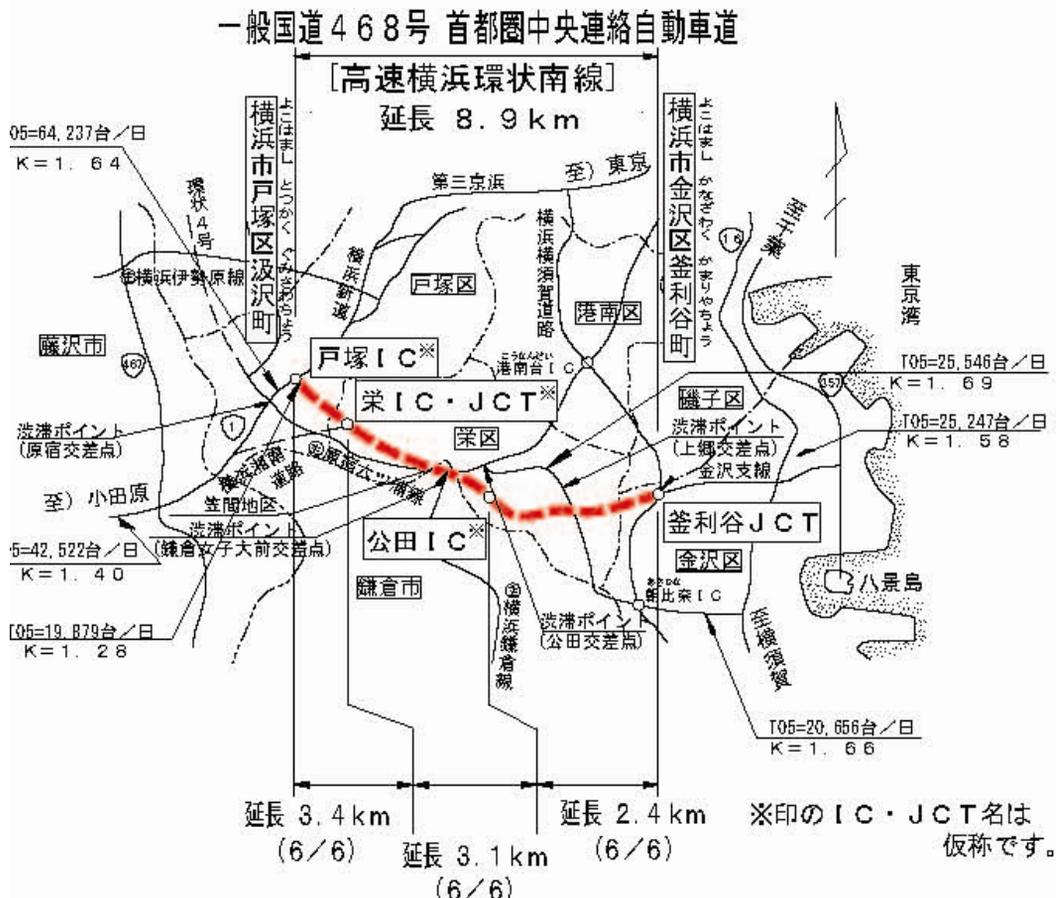
高速横浜環状南線は、「首都圏中央連絡自動車道」に位置づけられているとともに、横浜都心から概ね半径10～15kmの位置に計画された横浜環状道路の一部であり、横浜市内の交通の利便性を向上し、交通渋滞の緩和、副都心や地域拠点間の連絡強化、周辺地域の活性化を促すことを目的とした道路です。

これまでの状況

横浜環状南線は、横浜市金沢区釜利谷町～横浜市戸塚区汲沢町までの間の延長約8.9km（一部事業は東日本高速道路(株)が担当）について、道路設計及び用地買収を実施しており、平成22年3月末時点で用地取得率が約68%に達しているところです。

平成22年度の予定

今年度は、道路設計及び用地買収を実施します。



原宿交差点改良（立体化事業）

（横浜市）

平成22年度事業費 約2.03億円

概要

原宿交差点改良は、国道1号と主要地方道原宿六浦線（環状4号線）、主要地方道阿久和鎌倉線との交差点であり、近年の交通量の増加に伴い渋滞が慢性化していることから、交通混雑の緩和、交通安全の確保を目的とした延長約0.8kmの交差点立体化事業です。

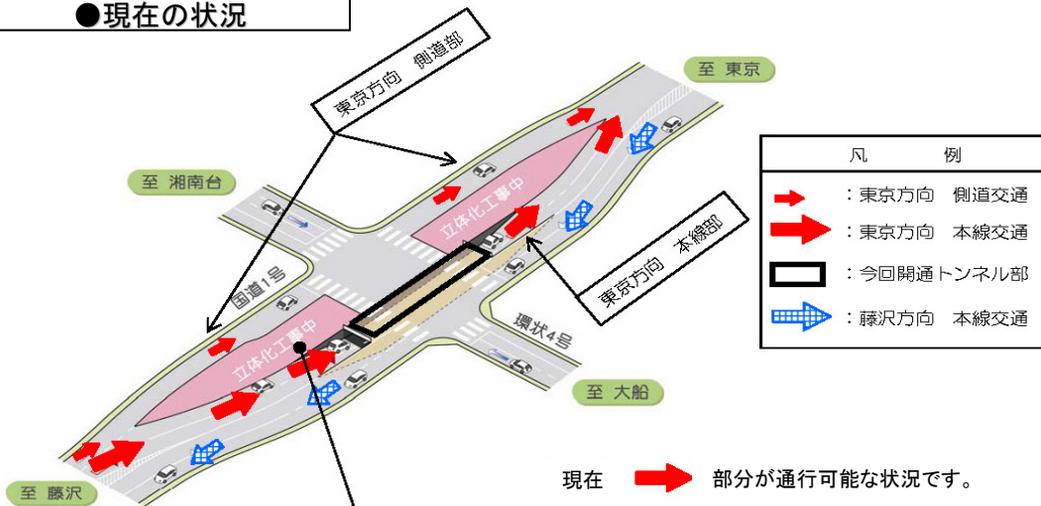
これまでの状況

原宿交差点改良は、横浜市戸塚区原宿地先の延長約0.8kmにおいて、主要地方道原宿六浦線（環状4号線）を国道1号が下越しをする交差点立体化の事業であり、早期に整備効果を発揮させるため、渋滞のより激しい上り線を平成21年4月4日に開通しました。

平成22年度の予定

今年度は、立体化工事について平成22年内に全線開通予定の他、道路設計、側道及び交差点改良を実施します。

●現在の状況



部分につきましては、平成22年内の完成に向けて鋭意工事を行っています。



H22.4.16 シールドマシンの貫通状況



現在の通行状況

東京湾岸道路 [神奈川県区間]

(横浜市、横須賀市)
平成22年度事業費 8.46億円

概要

東京湾岸道路は、東京湾に接する各都市を連絡する延長約160kmの主要幹線道路です。

これまでの状況

国道357号東京湾岸道路[神奈川県区間]は、川崎市川崎区浮島町から横須賀市夏島までの間の延長約35.1kmの区間であり、そのうち横浜国道は川崎・横浜市境から横須賀市夏島までの延長26.4kmを担当しています。

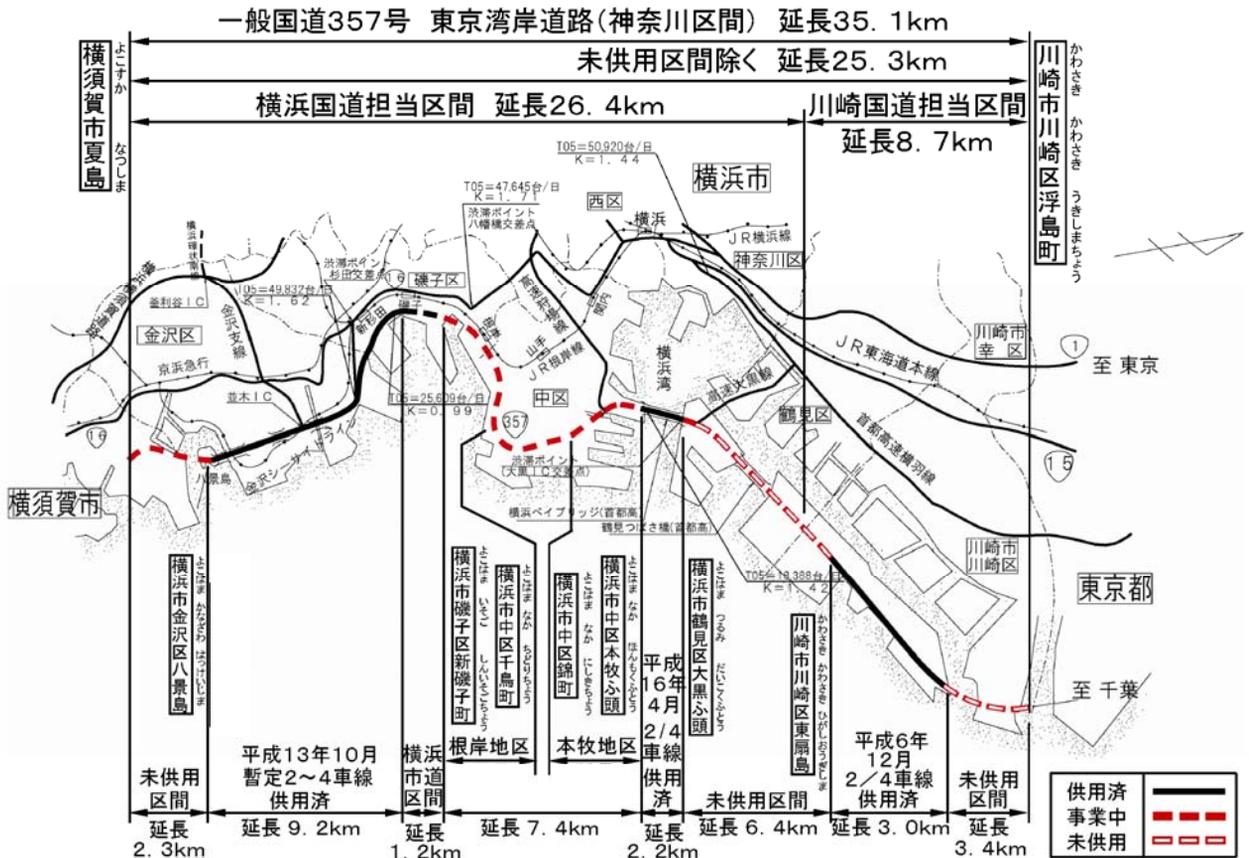
このうち、大黒ふ頭～本牧ふ頭までの間のベイブリッジ一般部の延長約2.2kmについては、平成16年4月までに暫定2車線で開通しています。

中区本牧ふ頭から磯子区新磯子町までの間の延長約7.4km区間のうち、本牧地区については、道路設計を実施しており、根岸地区については、道路設計及び橋梁・改良工事を実施しています。

磯子区新磯子町から金沢区柴町までの間の延長約7.0km区間については、4車線で開通済みであり、金沢区柴町から八景島までの間の延長約2.2kmについては、4車線化の改良工事を実施しています。

平成22年度の予定

今年度は、調査設計及び、根岸地区等の橋梁工事及び改良工事を実施します。



そのほかの改築事業

平成22年度事業費 約13.92億円

厚木秦野道路

概要

厚木秦野道路は、国道246号のバイパスとして、第一東海自動車道(東名高速道路)、第二東海自動車道(新東名高速道路)、さがみ縦貫道路と相互に連絡し、県央地域の広域的なネットワークを形成する道路です。

これまでの状況

厚木秦野道路は、厚木市中^{なかえち}依知～厚木市^{いいやま}飯山[厚木地区(延長約3.6km)]までの間及び伊勢原市^{にしとみおか}西富岡～伊勢原市^{せいはら}善波[伊勢原地区(延長約4.8km)]までの間が事業化しており、これまで道路設計及び用地買収を実施しています。

平成22年度の予定

厚木地区については、道路設計を実施します。
伊勢原地区については、道路設計及び用地買収を実施します。

小田原箱根道路

概要

国道1号の小田原市^{かざまつり}風祭から足柄下郡箱根町^{ゆもと}湯本までの間の交通混雑の解消を目的としたバイパス道路です。

これまでの状況

小田原箱根道路は、小田原市風祭～足柄下郡箱根町湯本までの間の延長約2.2kmのうち、平成17年3月に延長約2.0km区間を暫定2車線にて開通しています。

平成22年度の予定

今年度は、道路設計、改良工事及び支障物件移設補償を実施します。

山北バイパス(向原地区)

概 要

国道246号の山間部の線形改良及び異常気象時の通行規制区間の解消を目的に計画された神奈川県足柄上郡山北町向原から山北町川西に至る延長約5.6kmの道路です。

これまでの状況

山北バイパスは、足柄上郡山北町山北^{やまきた}～川西^{かわにし}までの間の延長4.6kmのうち、平成17年3月に延長約2.0km区間を暫定2車線にて開通しています。

足柄上郡山北町向原の向原改良においては、道路改良を実施しています。

平成22年度の予定

今年度は、改良工事を実施し、平成22年度の開通を予定しています。

新湘南バイパス

概 要

国道1号の茅ヶ崎市、平塚市及び周辺部の交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的とした自動車専用道路です。

これまでの状況

藤沢IC～茅ヶ崎西ICまでの間(延長約8.4km)は、昭和63年3月より4車線にて開通しています。

茅ヶ崎西IC～茅ヶ崎海岸ICまでの間(延長約1.2km)は、平成7年12月より4車線にて開通しています。

平成22年度の予定

今年度は、調査設計を実施します。

横須賀地区トンネル改修

概要

横須賀市内の国道16号における、老朽化が著しいトンネルのうち抜本的な対策の必要性が高いものを対象に、改修整備を行い交通の安全性の確保や円滑化を図るものです。

これまでの状況

横須賀地区トンネル改修は、横須賀市吉倉町1丁目～横須賀市追浜町1丁目までの間に存在する、新浦郷、新船越、新田浦、新吉浦トンネルの4カ所のトンネルにおいて、調査設計を実施しています。

平成22年度の予定

今年度は、調査設計を実施します。

秦野 I C 関連

概要

秦野 I C 関連は、第二東海自動車道(新東名高速道路)と国道246号を接続するインターアクセス道路整備事業です。

これまでの状況

秦野 I C 関連は、秦野市菖蒲しょうぶ～秦野市八沢はっさわの間の延長約0.8Kmであり、調査設計を実施しています。

平成22年度の予定

今年度は、調査設計を実施します。

川崎 1 号環境整備

概要

川崎市内の国道1号における歩行環境、自動車交通の円滑化、大気・騒音環境の改善など、道路と沿道が一体となったゆとりある「みち」と「まち」づくりを進めることを目的とした沿道環境事業です。

これまでの状況

川崎1号環境整備は、川崎市幸区小向仲野町こむかいなかのちょう～川崎市幸区柳町やなぎちょうの間の延長約2.8Kmであり、環境対策の検討を実施しています。

平成22年度の予定

今年度は、調査設計を実施します。

維 持 管 理

平成22年度事業費 32.78億円

主 な 概 要

横浜国道事務所では国道1号、15号、16号、246号、357号、409号の6路線、延長約242.2kmを管理しており、道路を安全で安心して利用していただくため、巡回、道路清掃、路面の補修などを実施しています。

また、高度経済成長期に集中して建設された道路ストックの長寿命化等予防保全対策を実施します。



巡 回



清 掃

(路面清掃・排水施設清掃等)



路 面 補 修

平成22年度の主な事業

重要な道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するため、橋梁の定期点検により状況を把握し、劣化や損傷が生じた箇所を補修することで橋梁の長寿命化を実施します。

【主な事業箇所(橋梁の長寿命化対策)】

- 国道1号 青木橋
- 国道16号 本村高架橋
- 国道246号 新相模大橋 他

橋梁補修施工前



橋梁補修施工後



増桁による床版補強

【写真は国道16号保土ヶ谷バイパス南本宿ランプ橋による補修実施例】
(増桁による床版補強・ひび割れ注入など)

交通安全事業

平成22年度事業費 24.43億円

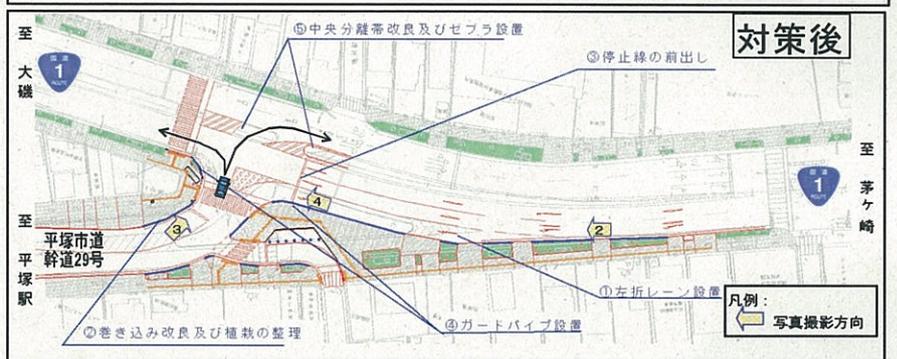
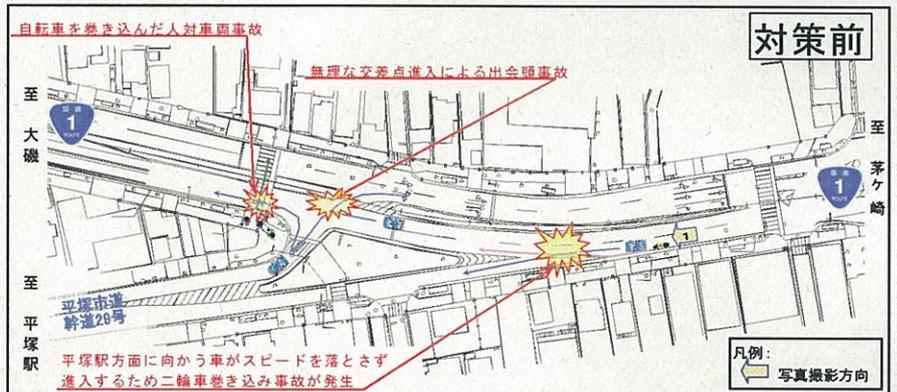
主な概要

選択と集中により、死傷事故率が高い箇所に対し予算を集中して策を講じる「レッドゾーン戦略」に基づいて重点的・戦略的に対策を実施します。

また、平成20年1月17日に国土交通省と警察庁が指定した、自転車道モデル地区等の整備を横浜市金沢区内において行います。

対策の事例 国道1号 馬入交差点

「左折車から二輪車や横断する自転車・歩行者を守る対策」や、「出会い頭事故対策」等を行いました。



巻込事故対策

左折車を分離してわかりやすくしました



①左折レーンを設置



出会い頭の事故対策

平塚市道からの右折車が直角に進入できるようにしました



⑤中央分離帯改良、セブラ設置



左折事故対策

左折車から二輪車や横断する自転車・歩行者を見えやすくしました



③停止線の前出し
④ガードパイプの設置



平成22年度の主な事業

- 事故死傷率、地元要望等を踏まえ警察と連携し、レッドゾーンの箇所について対策を実施します。

【主な対策箇所】

国道1号 横浜市神奈川区（二ツ谷交差点）
 国道246号 川崎市宮前区（新道馬絹交差点）
 国道1号 小田原市国府津（親木橋交差点） ほか

- 歩行者と自転車の接触事故対策として自転車道の整備を実施します。

【主な対策箇所】

国道246号 厚木市船子地先 延長約1.9 km ほか

- 通学路やバリアフリー法「高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律」の特定経路に位置づけられた箇所を優先的に歩道を整備します。あわせて、歩道等のバリアフリー化を行います。

【主な対策箇所】

国道1号 多摩川大橋 (歩道の拡幅)
 国道1号 二宮地区 (歩道バリアフリー化)
 国道246号 伊勢原地区 (歩道バリアフリー化)
 国道15号 横浜市神奈川区神奈川新町横断歩道橋 (架け替え)
 国道15号 横浜市神奈川区神奈川2丁目横断歩道橋 (架け替え)

ほか

多摩川大橋（上り）整備状況



整備前



整備後

- 車両の転落により二次災害が危惧される長大橋について、車両用防護柵への更新を実施します。

【主な対策箇所】

国道246号 秦野市富士見町秦野大橋 ほか

共同溝・電線共同溝事業

平成22年度事業費 30.93億円

共同溝の整備

概要

共同溝は地下に設置されるため地震災害などに強く、加えて路面の掘削を規制するとともに各種公益物件を効率的に集約し、円滑な道路交通の確保を図ることを目的として整備を推進します。

平成22年度の予定

現在事業中の区間において、主に溝内設備工事を推進します。

【事業箇所】

- 国道357号 金沢共同溝
- 国道357号 新杉田共同溝

電線共同溝の整備(無電柱化の推進)

概要

電線共同溝の整備により無電柱化を図り、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観や防災性の向上等の保全を図ることを目的として整備を推進します。

平成22年度の予定

現在事業中の区間において、主に本体工事を推進します。

【主な事業箇所】

- 国道1号 酒匂3丁目電線共同溝
- 国道16号 鶴ヶ峰電線共同溝
- 国道246号 溝の口電線共同溝 ほか28箇所



整備前



整備後

電線共同溝整備の事例
(国道16号 保土ヶ谷電線共同溝)